



紀泉病院

(平成28年10月21日訪問)
平均在院日数627日(平成28年9月30日時点)

積極的な取り組みなど

- 病院に金銭を預ける場合の管理料が無料だった。
- 3・5 病棟では Wi-Fi 環境が整っており、申し出があれば、パソコンやタブレットを持ち込んで使用できるとのことだった。

前回の訪問(平成23年8月)から改善されていた点、未改善点等

- 前回訪問時、自分で歩ける患者は自分で薬を詰所等へ取りに行くことになっていたことについて、今回は①職員が病室を回っ

て渡す、②患者が詰所に取りに行く、③退院予定日が決まった患者は1日分ずつの薬を自己管理する、3パターンになっていた。

- 使われていない拘束ベルトがベッドに付いたままだったこと、2病棟のデイルームの畳スペースに激しい摩耗が見られたこと、男性小用便器の足元にタオルが置かれていたことについて、今回はそのような状況はなかった。
- 1 病棟でおやつをテーブルに直に置いたり、患者に手渡していたことについて、今回は 2 病棟では、おやつは白いポリ袋に入れて渡され、患者によっては、お皿を使って食べていた。

病院全体

人権擁護委員会・提案箱

人権擁護委員会の委員長は院長で、月1回開催される。提案箱は外来と各病棟の公衆電話近くに設置されていた。提案箱の上には用紙と紐付きのペンが置かれていた。月1回、事務長や看護部長が提案箱の投書を回収し、その中から各病棟で共通する提案を選んで人権擁護委員会で検討する。投書への回答は、2病棟では提案箱の横の壁に、3病棟では提案箱の上にセロテープで貼られていた。

金銭管理

病院管理の場合は無料。ベッド横の床頭台にある鍵付きロッカーを使用する場合は20円/日かかる。1・2病棟(閉鎖病棟)では全員が病院管理、3病棟では半数程度が鍵付きロッカーを使用し自己管理

している。院内売店があり、現金か伝票で買物をする。

面会

面会時間は9:30～17:00。面会室は病棟内。

PSW・退院支援

病棟担当5名、デイケア2名、施設担当2名。病棟ごとに担当PSWがいる。医療保護入院退院支援委員会は、患者に参加してもらうこともある。退院後生活環境相談員は病棟担当のPSWが担っている。

3病棟では1～2ヶ月に1回、退院に向けての院内茶話会を行っており、毎回10名程が参加している。



病棟の様子

病室

4人部屋が中心だが、3人部屋や個室もあった。多くのベッドは、カーテンが開けられていた。ベッド下に衣装ケースを置いている患者もいた。衣装ケースは、1つ目は無料、2つ目からは1日10円かかる。

電話

詰所前に公衆電話が設置されており、アコーディオンカーテンで囲えるようになっていた。携帯電話は3・5病棟では持ち込める。詰所に預け、公衆電話で電話をかける際に電話番号を調べる時や、外出時に受け取れる。

1病棟 閉鎖 男女 精神一般 15:1 70床

患者の約9割が車椅子で、ほとんどの患者がY字帯を使用されていた。それ以外の1割の患者はベッドで横になっていた。Y字帯の使用について職員によると「事故防止のため。骨折すると別の病気も起こる」との説明だった。また、両手にミトンが装着されている患者がおり、理由を聞くと胃ろうを外そうとするためとのこと。詰所にはモニターがあり、病棟の廊下、観察室、胃ろう等の器具を外そうとする患者やよく転倒する患者など、見守りが必要な患者が入る病室等が映し出されていた。

ほとんどの患者のベッド周りには、私物がほとんど置かれていなかった。

2病棟 閉鎖 男女 精神一般 15:1 70床

詰所内の棚には患者が購入したおやつが保管されていた。おやつが多い少ないなどの苦情が出ないように気を配って、中身の見えない白いポリ袋に入れて渡しているとのこと。

隔離室

詰所奥にあった。床の枠に畳がはめ込まれている形のベッドの部屋が3室、通常のベッドの部屋が1室あった。トイレは洋式と和式で、周りには囲いがあった。トイレの水はナースコールで職員を呼び、流してもらう。

患者の声

「PSWがいることは知っている」

3病棟 開放 男女 精神療養 60床

OTの作品が廊下に掲示される等で、2病棟と比べると病棟内は明るい雰囲気だった。訪問時は、OTで運動会が行われており、ほとんどの患者が参加していた。

患者の声

「外出の時は名簿に書けば自由に出られる。戻る時間も自分で決められる」

5病棟 開放 男女 精神療養 60床

泉南フレンド（地域活動支援センター）のリーフレットが公衆電話付近に置かれていた。連携、交流があり、数名が体験利用したこともある。

外出簿の最後から2番目の日が11月2日（訪問日以降の日付）、最後の記入日が10月2日で訪問日の19日前だった。ほとんど院外への外出する人はいない事、外出簿の記入が正確に行われておらず、またチェックもなされていない事が推察された。

患者の声

「大事なものはロッカーの中に入れて、鍵は首にかけている」「楽しみはコーヒーを自販機で買って飲むこと」「6月に入院して10月末に退院決定になった。薬は1日分ずつ職員が部屋に持ってきてくれる」「手動式の押車を使っているので外出は病院の庭まで」「私物は衣装ケース3個と床頭台の中だけ」「入院してから足が悪くなった。大阪市出身。早く退院したい」「ロッカーは鍵がかかるので、金はそこで保管している」「午後の時間帯はすることがない」「OTは楽しい」「OTに行くことを強制される」「洗濯は自分でしている」「職員が何も言わず、自由にさせておいてくれるのでいい」「自分の部屋にテレビがあるので、デイルームでは見ない」「月1回、面会に来てくれるので、小遣いはそのとき貰う。車椅子で外出することがたまにある」「診察は週1回。病気についての話はしてくれている。足の傷が治るまでは退院は駄目だと言われている」「小遣いは弟が月5,000円振り込んでくれ、それを職員から貰う。ジュースを買ったりする」

ステップ 宿泊型生活訓練事業所（定員20名）

病院の敷地内にある。2年以内に自立の訓練をして退所するのが目標。現在は8名が入所。そのうちデイケア利用者が7名、外部の事業所への通所者が1名。去年退所者が多く、急に減った。

検討していただきたい事項

落ち着いて診察を受けられるようにするために

3病棟では、患者は診察室前に並べられた椅子に座って診察を待っていた。患者からは「診察の時は並んで待つ。先生の診察が早く終わるから待つかないダメ」「診察もお風呂も早いもの順であるため、早く行くようにしている。診察はいくら待っても数分で終わる」との声があった。5病棟では診察室前に10名近くの患者が並んでいた。診察室前の椅子に座ったり、車椅子で待っていたり、立ったまま待っている患者もいた。患者からは「診察時間は先生は忙しいから悪いかなと思って、質問を1つに抑えてしまう。6人位の名前がアナウンスされ、廊下ずっと待っている状態だから」との声があった。（病院：診察は個人のプライバシー保護のため診察室で、行っています。患者がゆとりを持って会話できる時間をとれるようにし、来診は少人数ずつ案内し、着席して待つようにしていただきます。）

退院に希望の持てる情報提供や支援を

平均在院日数は627日（平成28年9月30日時点）だった。患者からは「退院の話はしてくれない」「退院できないと思う」「家族に迷惑はかけられない」「もう家はない。このままずっとここで暮らす」「1年前に入院、退院の時期は言われてない」との声があった。



- (1) 患者に対し病院側が積極的に情報提供することを検討していただきたい。
- (2) 上記のことや退院の目処、現時点の目標を含む治療方針・治療計画・薬について情報を求めたり、質問をしてもいいということを、全ての患者にきちんと説明することを徹底していただきたい。
- (3) 病院内外の様々な資源を活用して退院支援を進めることを検討していただきたい。

(病院：より一層検討の上実施します。)

職員の接遇について

患者から「(職員の言葉遣いや対応は)優しい」という声がある一方で「言葉遣いが優しい職員もいるし、きつい職員もいる」「医師は名前で呼んでくれるが、看護職員はタコ、タコと呼ぶ。人間扱いされない」「簡易トイレの使用中に周りを汚したら職員に叱られた」との声もあった。(病院：提案箱に職員個人への意見がある場合は個別に職員に注意の上、事例を職員全体に周知しています。サポーター訪問時に、このような申し出があったことを職員に周知徹底し誤解のない言葉使いの使用をさらに徹底します。)

管理上の便利さと患者のプライバシーについて

2・3病棟では、詰所横の壁にインフルエンザ予防接種の受付案内があり、希望者は自分で名前を書きこむようになっていた。(病院：申込者名は表示しないようにします。)

管理中心ではない処遇を

2病棟で職員に対し、心がけて取り組んでいることについて質問すると、患者同士のトラブルが起きないように、金銭、薬、テレホンカード、おやつ等の管理方法の話が中心だった。この病棟では、金銭、テレホンカード、おやつは全て詰所や病院管理だった。(病院：自己管理能力が回復したと判断できる患者には3、5病棟(開放病棟)に積極的に転棟してもらいます。2病棟では患者同士の人間関係を保てない方も多く、どうしても指導的になりがちですが、個別に配慮するように職員に周知します。)

シーツ交換について

患者から「自分でシーツを外す。職員にやってもらう患者もいる」との声があった。(病院：もちろん本来は職員の業務ですが、あえて生活訓練と考え可能と判断できる方には試みていただいております。)

隔離室について(2病棟)

照明が暗く、トイレ付近は特に暗く感じた。壁には広範囲にわたって鉛筆等で文字が書かれた跡があった。(病院：改善の方向で検討します。)

ベッド周りのカーテンについて

今回は全てのベッド横にカーテンが設置されていたが、カーテンはベッドの左右だけで、足元側にはなく、病室内を歩くと、ポータブルトイレを使用している姿が他の患者に見える状況だった。(病院：設置します。)

掲示物の高さについて

顔写真入りの職員紹介が掲示されていたが、高さが160～180cmくらいの所にあった。(病院：改善します。)

おやつと食事の場所について(2病棟)

訪問時はおやつの時間帯だった。デイルームの椅子が畳に座って食べていたが、非常に混み合っており、立ちながらお菓子を食べている患者も多数いた。詰所前の廊下の壁際にテーブルが置かれていた。食事時にはデイルームだけではスペースが足りないため、車椅子の患者がこのテーブルで壁に向かって座って食事を取るとのことだった。(病院：おやつは、座ってゆっくり食べられるように場所、時間を検討します。食事は誤嚥の事故を無いように見守るため、また時間のかかる人も詰所近くのテーブルで喫食していただいておりますが、できるだけゆとりのある空間と時間でできるよう検討します。)

おたずね

- 入浴は原則週2回で、希望があれば入浴日以外もシャワー浴が可能とのことだった。週3回の入浴が継続できなかったのはなぜですか。(病院：患者の高齢化と共に要介助者が急増し、希望者が減少しました。希望者は土曜入浴が可能なように再検討します。シャワー浴は入院時口答にて告知し、掲示板にポスターを貼り告知しています。)
- 患者から「入浴は、男性が先の日は(お湯が汚いため)湯船につからない」との声があった。(病院：湯の入替えを再検討します。)
- 前回訪問時、1病棟の出入口が開いた時の音楽が大きく、デイルームまで響いていたことについて、検討しますとの回答だったが変わっていなかった。(病院：チャイム使用以来オートロックの不完全施錠による患者の病棟外に迷い出ることはゼロになりました。音に敏感な方の存在にも考慮して音量、音質等再検討します。)
- 外出の機会が「ない」「少ない」との声が多く聞かれた。(病院：1、2病棟(閉鎖)では原則同伴ですが、週5回の単独の院内外出は10人くらいです。個別単独院外外出は、合計、月20件です。3、5病棟(開放)では両病棟で差はありますが、1年間で総計650件の届け出がありました。病院で実施する合同院外レクリエーションは各病棟平均年4回程度です。)

精神保健福祉資料より(平成28.6.30時点)

224名の入院者のうち統合失調症群が139名(62%)、認知症など症状性を含む器質性精神障害が51名(23%)、気分障害が13名(6%)、知的障害が13名(6%)。入院形態は任意入院72名(32%)、医療保護入院152名(68%)。在院期間は1年未満が43名(19%)、1年以上5年未満の患者が82名(37%)、5年以上10年未満の患者が51名(23%)、10年以上20年未満が22名(10%)、20年以上が26名(12%)。

ほぼは 大阪府内の精神科病床のある
全病院への訪問活動の報告です。



クリック

病院訪問活動から考える
権利擁護

この本の使い方はいろいろ

- 「大阪府内の精神科病院の情報を知りたい」
- 「病院訪問活動の視点を知りたい」
- 「実習前に精神科の療養環境について知っておきたい」
- 「自分の勤務する病院を見つめなおしたい」

認定 NPO
大阪
精神医療
人権センター
30周年

A4 サイズ / 210 ページ
2,000 円

目次

- ・大阪における精神科病院への訪問活動のうつりかわり
- ・療養環境サポーター制度について
- ・各病院の訪問報告
- ・各病院の職種別職員数一覧表
- ・精神科病院訪問ボランティアへのインタビュー
- ・入院中の精神障害者の権利に関する宣言



療養環境サポーター
最新報告

人権センターニュース毎号 2 病院掲載中

入会やご寄付のおねがい

私たちの財政的基盤の中心は「会費」や「寄付」となります。活動を維持し、充実させるためには、皆様からの支援が必要となります。



電話・面会相談では相談者の方からお金を頂いておらず、訪問活動（療養環境サポーター制度）でも大阪府等から委託費用の支払はありません。特に面会活動の拡充のためには、交通費（1回 2,000 円～ 4,000 円／2 名分）や複数の事務局スタッフの人件費（年間約 500 万円）が必要となります。

会費・寄付の申込と支払方法

ご寄付もいつでも受付けています。

会員種別
年会費

賛助会員

障害者 1,000 円
個人 3,000 円
団体 5,000 円

特別協力会員
& 寄付
大募集

特別協力会員

A 10,000 円
B 30,000 円
C 50,000 円

会員特典

人権センターニュースの送付 2 か月に 1 回 年間 6 冊

人権センターニュースは、「声をきく」ことを重要な価値観とする私たちだからこそ発信できる情報が盛りだくさんです。また、病院訪問報告書も毎号 2 病院掲載しており、大阪府内の病院の療養環境の改善状況等を知ることができます。当事者・家族の皆様だけでなく、精神科病院に勤務する皆様や地域精神医療保健福祉にかかわる皆様にも必見です。

メルマガ配信 1 か月に 1 回から 2 回

精神医療及び精神保健福祉にかかわる最新ニュースや私たちの講演会・セミナー情報等をいち早くお知らせします。

活動参加のための情報提供

面会活動だけでなく、講演会の企画・運営や広報誌・SNS による情報発信のサポート等いろいろな形で参加できます。

※面会活動は養成講座の受講が条件となります。



寄付特典

ご寄付をしていただく場合、確定申告によって『税額控除』を受けることができます。

税額控除とは？

※確定申告は最寄りの税務署にご相談ください。

※大阪府（堺市を除く）に在住の方は、地方税も控除されます。

※控除には限度額があり、実際の税額はケースにより異なります。

寄付金 1 万円の時

所得税額 -3,200 円

実質負担 6,800 円

寄付金 5 万円の時

所得税額 -19,200 円

実質負担 30,800 円

10,000 円のご寄付で、2～3 名の面会が可能になります。



郵便払込	口座番号 00960-3-27152 加入者名 NPO 大阪精神医療人権センター
銀行振込	三井住友銀行 南森町支店 普通 1485805
現金	講演会会場・事務所に
クレジットカード	ウェブサイトのみ



こちらより申込書をダウンロードできます

検索 大阪精神医療人権センター
<http://www.psy-jinken-osaka.org/>

入会・寄付は WEB でも手続きできます。

クリック

認定 NPO 法人大阪精神医療人権センター

お問い合わせ

〒530-0047 大阪市北区西天満 5-9-5 谷山ビル 9F

TEL 06-6313-0056 FAX 06-6313-0058 メール advocacy@pearl.ocn.ne.jp